

加湿器の中のレジオネラ属菌

毎年インフルエンザの患者数は1千万人を超えています。

予防法としては手洗い、うがい、予防接種、睡眠を十分にとることなどがありますが、加湿（加湿器の利用）も十分に効果があります。ところが、最近、加湿器を使用したことによる感染被害（レジオネラ肺炎）が発生しています。重症化し、死亡例も報告されています。加湿器によるレジオネラ肺炎は、給水タンクの水の中で、繁殖したレジオネラ属菌を、エアロゾル（目に見えない細かい水滴）とともに吸い込むことにより発病します。特に高齢者や病気の人が、抵抗力が低下している人が吸い込むと、発病しやすいと言われています。

レジオネラ属菌とは水中や土壌中など自然界に広く存在する細菌です。このレジオネラ属菌は、消毒されていない水や入れ替わりの少ない水、水温20℃から50℃位の水に混入した時、増殖するおそれがあります。一方、塩素消毒や60℃以上の加熱にはとても弱い細菌です。加湿器の種類には、大きく分けて4種類あります。スチーム式加湿器、ハイブリット式加湿器は給水タンクの水を加熱しますが、超音波式加湿器、気化式加湿器は給水タンクの水を加熱しません。

一般的に多く使用されている、水を加熱しない超音波式加湿器、気化式加湿器を使用する時は、レジオネラ属菌に注意が必要です。使用する時は、次のことに注意しましょう。

- ・使用する際は新しい水道水を入れて使い、水のつぎたしはやめましょう。
- ・使用後は、給水タンク内の水を抜き、乾かして保管してください。
- ・給水タンクはこまめに清掃してください。

当研究所では、レジオネラ属菌の検査を実施しております。ぜひご相談ください。